

# 養豚場における防疫対策

**Q. 予防はなぜ重要なのか？**

A.

家畜を飼養する上で、病気の発生を防ぐことは、安全な畜産物を生産する観点や、経営の面からも非常に重要です。ひとたび病気が発生すると、生産性の低下・生産物の出荷停止など、たくさんの経費が発生します。また、発生した病気を排除するためには、大きな手間とコストがかかります。

## Q. そもそも、病気と感染症の違いは？

A.

**病気**とは、生体が、その形態や生理・精神機能に障害を起し、苦痛や不快感を伴い、健康な日常生活を営めない状態を指します。

**感染症**は病気のなかで、病原体が生体内に侵入・増殖して引き起こすものを指します。感染症は、インフルエンザ・赤痢・マラリアなど伝染性のものと、破傷風・敗血症など、非伝染性のものに分かれます。

**病 気**

がん、心筋梗塞、白内障など

**感染症**

インフルエンザ、  
マラリア、  
破傷風など

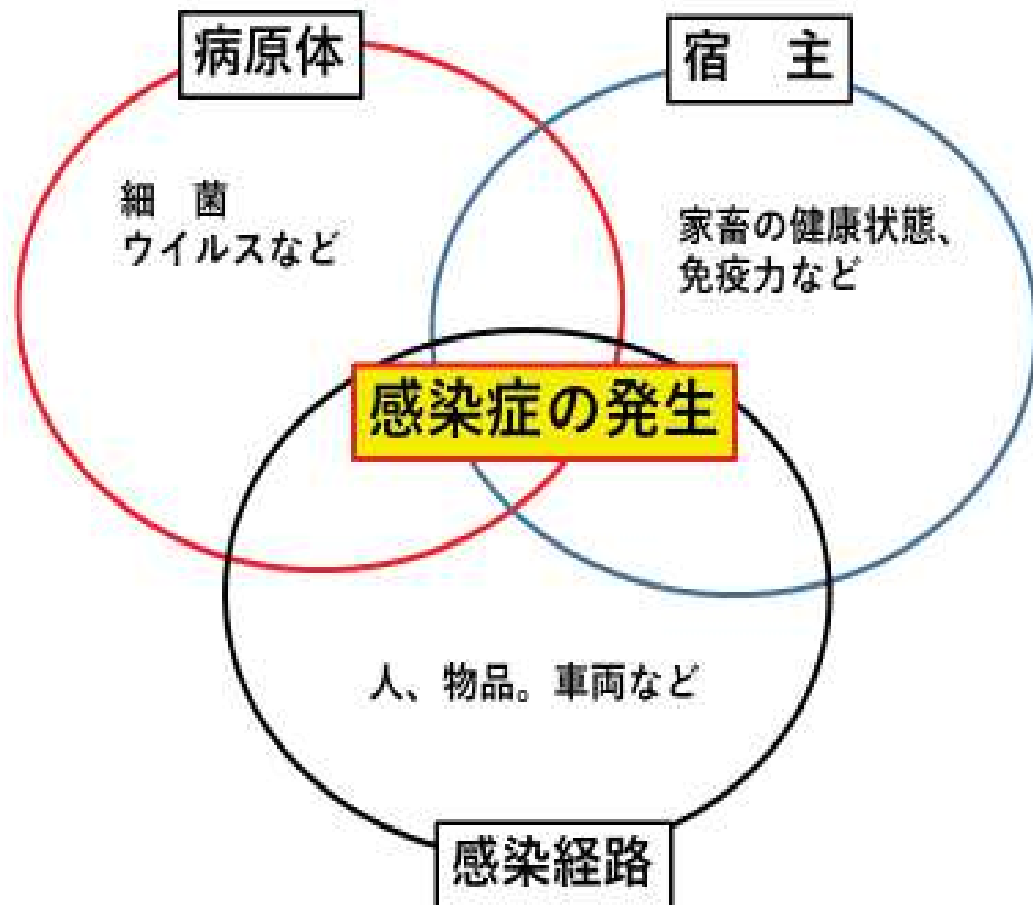
つまり、感染症は病気の種類であり、  
病原体が生体内に侵入して症状が  
出る病気のことです。

## Q. 感染症に感染しないためには？

A.

感染が成立するためには、3つの条件が必要となります。これを「**感染症の3要因**」と言います。このうち**1つでも排除できれば、感染症の発生を防ぐことができます。**

茨城牧場では主に、**感染経路に対する防疫対策**に力を入れることによって、感染症の発生予防に努めています。



## Q. 感染経路に対する防疫対策とは？

A.

当场では、主に以下の2つの方法で、病原体の**感染経路（侵入経路）を遮断**することによって、疾病の発生を防止しています。

### ① エリア分け\*による入場制限

衛生管理区域には、必要の無い人・物品・車両を入れない。

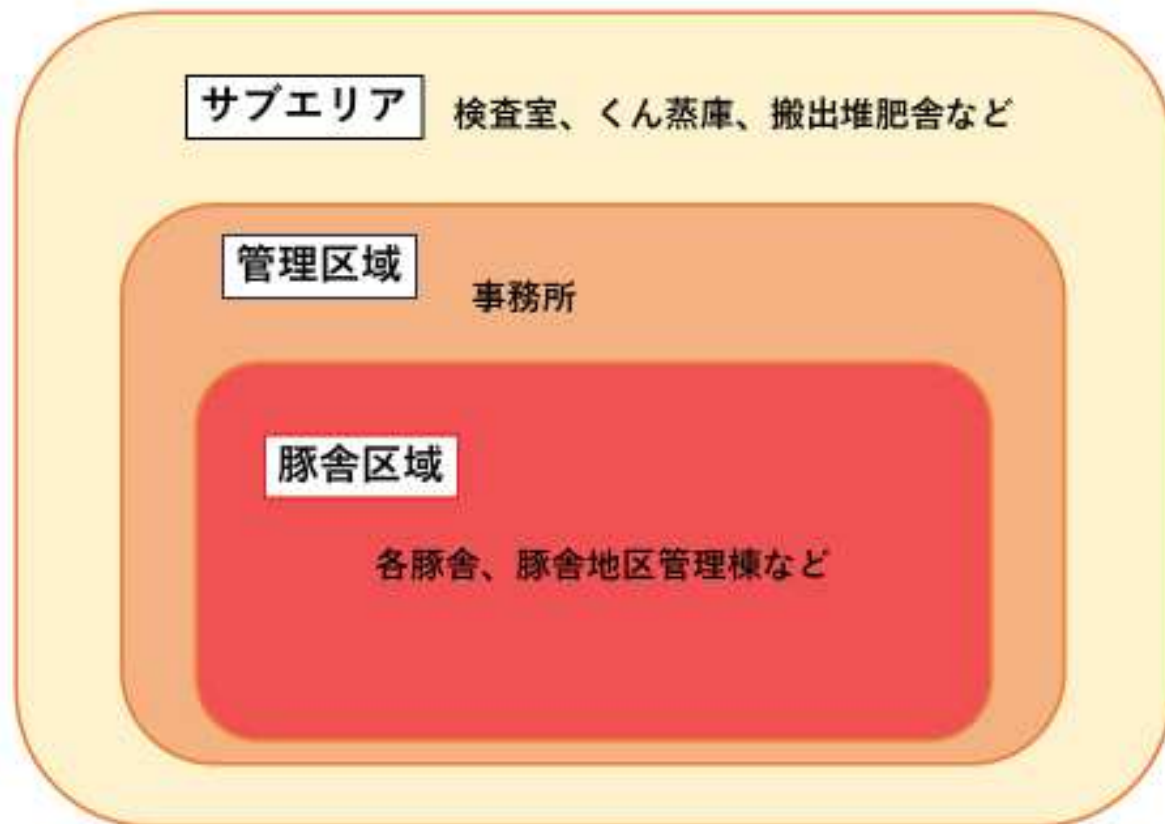
### ② 消毒の実施

衛生管理区域に入る人・物品・車両は、適切に消毒する。

## Q. 茨城牧場におけるエリア分けとは？

A.

当場では、農場全体を「豚舎区域」「サブエリア」「管理区域」の3つに分け、境界にフェンスを設置し、明確に区分しています。各エリアを移動する際は、消毒・シャワー浴・更衣など、細かな衛生条件を設定しています。



# Q. 人が茨城牧場に入る手順は？

A.

- ① 靴の履き替え、手指消毒（70%アルコール）をして管理事務所へ。
- ② シャワー浴の後、豚舎区域用つなぎ・長靴を着用し、手指消毒の後豚舎区域へ。
- ③ 豚舎専用つなぎ・長靴に更衣し、手袋を着用して豚舎内へ。



## Q. 物品を茨城牧場に入れる手順は？

A.

**消毒薬の噴霧（アストップ）、くん蒸（ハイペロックス、オゾン）  
紫外線灯により消毒を行ってから入れます。**

弁当、貴重品など個人の物品は、**アルコール噴霧＋紫外線滅菌**の後、  
豚舎区域に持ち込みます。

**車両は、原則豚舎区域には入れません。**

（※病原体が付着しているリスクが高いため）

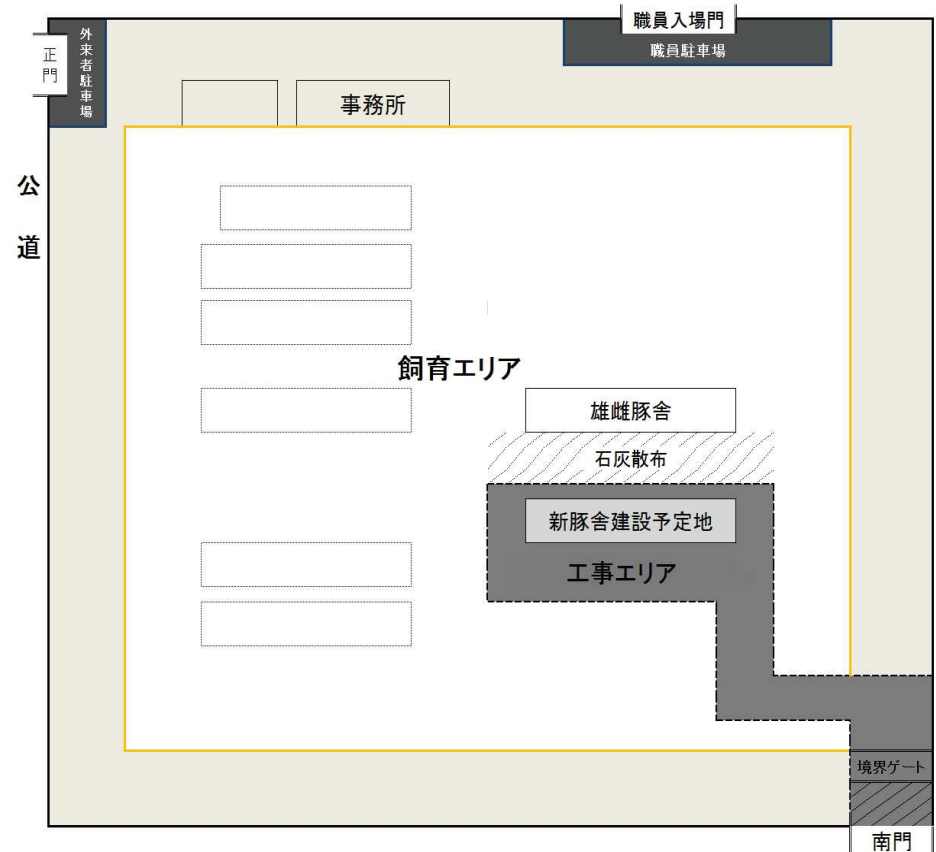
（※やむを得ず豚舎区域に入れる場合は、くん蒸消毒を実施。）

# Q. 豚舎区域で工事を行う場合は？

A.

平成27年に、以下の手順で豚舎区域内に新たな豚舎を建設しました。

- ① 工事関係者が、豚や飼養担当者に接触しないよう**工事エリア**を区分。  
↓
- ② 工事車両、資材等の**洗浄・消毒を実施**。  
個人の持込み物品についても消毒を実施。  
↓
- ③ 工事終了後、**工事エリアを消毒した後、飼育エリアに復帰**。





# 工事エリアの区分



プレハブ更衣棟

## 境界ゲート

- ① 工事出入口に境界ゲートを設置。入場車両はここで消毒し、工事関係者は左のプレハブ更衣棟で専用の作業着、長靴に着替えた。



豚舎区域

工事エリア

## 豚舎区域と工事エリアの境界

- ② 写真左が豚舎区域、右が工事エリア。トラロープを張り、エリア区分を明確化するとともに、フェンスにより、工事エリアを遮へいした。

## Q. 工事関係者の入場対応は？

工事関係者全員に、防疫ルールを理解してもらうため、**センター職員**による**説明会**を実施しました。昼食、貴重品、資料などの携帯物品は、**アルコール消毒、紫外線消毒**の後に、場内への持込を許可しました。

## Q. 工事用車両・資材・工具の搬入対応は？

工事用車両は、動力噴霧器による消毒薬噴霧により、**車体全体・タイヤ周り**を**消毒**するとともに、車内（**特にハンドル・ペダル**）を消毒用アルコールで消毒しました。

工事用資材・工具は、水洗の後に**消毒液への浸漬又はくん蒸**による消毒を行いました。水洗できないものは、**無水アルコール**で洗浄しました。

## Q. 工事終了後の対応は？

- ・ **新築豚舎外部、飼料タンク**

☞ 動力噴霧器により消毒薬を散布しました。

- ・ **豚舎内部**

☞ くん蒸消毒により消毒を行いました。

- ・ **工事エリア**

☞ 石灰散布により消毒を行いました。

**消毒終了後、新築豚舎で豚の飼養を開始**しました。

飼養開始後、伝染性疾病の発生はありません。